

Business Activity : Practical Aspects

【担当教員】

綿引 宣道 他

【教員室または連絡先】

経営情報系303
nwatahiki@kjs.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

本授業は、自然環境、人類の文化的・経済的活動など、技術科学をとりまく諸事情を理解し、広い視野を持って人類の幸福と持続的繁栄に技術科学を応用する意義を正しく認識した技術者になることを目的とするものであり、特に本授業では経営学の視点から、企業の実践的側面を理解することを達成目標とするものである。

1) 事業計画の書き方、2) 借入金のおこし方、3) 人脈の作り方、4) 説明能力を身につける。

【授業キーワード】

企業、経営資源、企業文化、顧客、企業の社会的責任

【授業内容及び授業方法】

本授業は、実務家を講師として迎え、企業の経営的な実践的側面について学んでいくものであるが、具体的に、企業内部で生じる、ヒト、モノ、カネ、情報、さらに第5の経営資源についての問題、また、企業外部で生じる経営的問題に対して、実践的にはどのように対応しているのか、講義や演習を通じて学んでいく。今回は、カシオ計算機の研究開発責任者に全面協力して貰っているので、この機会を逃さないこと。遠隔地から日帰りで講師を招聘するので、予定では水曜の5時間目と6時間目の連続で、基本的に隔週で授業を行う。実務家の都合に合わせての授業であるため、掲示板、HPをまめに見ておくように。

【授業項目】

23年度開講せず

【教科書】

指定しない。

【参考書】

起業に失敗しないための起業家読本—ビジネスプランから会社設立・運営まで (単行本)
横浜創業支援研究会 (編集), 横浜産業振興公社
価格: ¥ 1,995 (税込) 単行本: 221ページ
出版社: 同友館; 新訂版版 (2006/08) ASIN: 4496041847

【成績の評価方法と評価項目】

23年度開講せず

【留意事項】

推奨事項 各自で名刺を作っておくこと
e-learningコンテンツの特別授業(有価証券報告書の読み方)を見ておくこと。
※平成23年度開講せず。

【参照ホームページアドレス】

<http://kjs.nagaokaut.ac.jp/watahiki/>
「綿引宣道 准教授のページ」の「学生用ページ:授業の内容の資料など(学内限定)」

IT Utilization in Business Activities

【担当教員】

渡辺 研司

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

現代社会・経済への情報技術の活用が加速されつつある中、ITスキルはもはや社会活動を行う上で必要不可欠な基盤スキルである。本授業では企業活動におけるIT活用に焦点を当て、その現状や最新動向を理解したうえで、必要なスキルの開発を主に具体的な企業経営に係わる数値・データを用いた演習を通じて習得する。

【授業キーワード】

エンドユーザー・コンピューティング、ビジネス・ドキュメンテーション、ビジネス・シミュレーション、プレゼンテーション、意思決定

【授業内容及び授業方法】

前半は企業活動におけるIT導入状況と今後の方向性、またその背景について解説を行い、後半については実際に企業経営に係わる数値・データをもとに、ビジネス実務を想定したドキュメンテーション、シミュレーション、プレゼンテーションにかかわる演習を実施する。

【授業項目】

1. イントロダクション
2. 企業活動におけるIT
3. エンドユーザー・コンピューティングとワーク・スタイルの変遷
4. ビジネス・ドキュメンテーション演習
5. ビジネス・シミュレーション演習
6. ビジネス・プレゼンテーション演習
7. 最終プレゼンテーション(チーム毎)及び総括

【教科書】

特になし

【参考書】

特になし

【成績の評価方法と評価項目】

前半に関連する課題レポート(75%)及び最終プレゼンテーション・報告書(75%)。

【留意事項】

後半の演習についてはグループ単位で実施します。
※平成23年度開講せず。

【参照ホームページアドレス】

<http://kjs.nagaokaut.ac.jp/watanabe/>
講義用ホームページ

【担当教員】

塩野谷 明・羽賀 友信

【教員室または連絡先】

三宅仁(体育・保健センター107室内線9822、E-mail:miyake@melabo.nagaokaut.ac.jp)

斎藤秀俊(物質・材料 経営情報棟1号棟426室内線9316または3217)

木村悟隆(生物1号棟554室内線9413)

上村靖司(機械建設1号棟407室内線9717)

塩野谷明(体育・保健センター108室内線9823、E-mail:shionoya@vos.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

近年、特に阪神・淡路大震災以来、急迫的緊急避難状況下におけるボランティア活動の必要性・重要性が取り上げられている。しかし実際には、ボランティア活動の必要性は急迫的な状況だけに留まらない。また急迫的な状況であればあるほど、ボランティア活動に求められる知識・能力は専門かつ広汎に及ぶ。本授業では、ボランティア活動及び関連する事項全般について事例、具体例に基づき、総合的総括的に学ぶとともに、活動に必要となる知識、専門性そして資格取得のためのそれらについて学び、学習者がそれら資格を取得または習得する機会・足がかりをつかむことを目標とする。

【授業キーワード】

ボランティア、医療・福祉、震災、組織運営、資格、NPO

【授業内容及び授業方法】

授業項目に挙げる内容について、オムニバス形式で行う。授業方法は、各担当教員より別途指示するものとする。

【授業項目】

1. ボランティア活動概論
2. 震災時に必要なボランティア
3. 災害に学ぶ(新潟中越大震災、7.31水害、大雪等)
4. 医療・福祉におけるボランティア
5. 組織運営とボランティア
6. ボランティアと資格
7. ボランティアとNPO
8. その他

* 授業項目の頭の数字は、授業回数を示すものではない

【教科書】

各教員毎別途指示する

【参考書】

各教員毎別途指示する

【成績の評価方法と評価項目】

各教員毎にレポート等で評価し、その平均で最終成績とする。詳細は授業開始時に指示等を行う。

ボランティア実践活動
Practical Volunteer Activity

実習 2単位 1,2学期

【担当教員】

経営情報システム工学課程主任

【教員室または連絡先】

経営情報システム工学課程主任

塩野谷明(体育・保健センター108室内線9823、E-mail:shionoya@vos.nagaokaut.ac.jp)

【授業目的及び達成目標】

授業目的:ボランティア活動に関する知識・技能を学び、将来のボランティア活動に役立つ能力を身につけるとともに、学生及び社会人として求められる自主性、積極性、組織性、奉仕の精神、問題発見・解決能力などの資質を養うことを目的とする。学習・教育目標の(1-3)(5-1)(5-2)(5-3)

達成目標:ボランティア活動の理論と実践活動を通じて、社会、政治、経済環境をグローバルな視点で把握する。人間社会のコミュニケーション能力や困難を自分の頭で考え解決できる能力を磨く。責任感のある行動ができる人間を育成する。

【授業内容及び授業方法】

公共団体及びボランティア団体等、責任の所在が明確な団体の主催する活動に参加する。

【授業項目】

学生自身が探し、実際の活動にあたっては、事前に「ボランティア活動計画書」を各課程主任等の承認を得て、経営情報システム工学課程主任に提出し、その承認を受ける。

【教科書】

なし

【参考書】

活動内容による。

【成績の評価方法及び評価項目】

ボランティア実践活動時間を証明するボランティア団体等の責任者の証明書、ボランティア活動レポートにより判断する。

【留意事項】

学期始め履修申告期間に開催されるガイダンスの受講を原則とする。また、事前に「教養科目履修案内」をよく読むこと。